

読者ひろば

熊本地震

復興を急いで 地震の記録を

高谷和生 61

市民グループ

事務局長(玉名市)

熊本地震の余震も収まらない4月末、一冊の冊子をいただいた。書名は「恐怖におののいた明治二十二年の大地震」、編者は和木町郷土史家の故高木誠治さんである。かねてより、127年前の金峰山地震については、

断片的に聞き及んでいたが、個人で「防災くまもと資料」として刊行され、警鐘を発しておられたのには驚いた。

冊子前半部の日記を記した五野保萬は、旧菊水町で文筆に富んだ家柄の長。日記には明治22年7月28日深夜に起きた地震の様子、熊本城内石垣が5間余りも崩れ、鎮台兵も城内に出て慌てふためく姿、その後の余震も約2か月続いたことが書かれている。また、後半部の阪神大震災を機とした高齢存命者3人の聞き取り証言は、まさに平成28年熊本地震で被災した自分の姿でもあった。

熊本に根をほり歴史を研究していた私たちは、一体何を社会に還元していたのであろうか。地域拠点である八代市庁舎は被災し、分散し業務を行うという。1619(元和5)年の大地震による麦島城の被害、二の丸外堀の倒壊平櫓の歴史的発見は、地域の防災に生かせなかったのであろうか。阿蘇市小野原遺跡などの県内で発見された地震痕跡も同様である。この熊本で巨大な地震があった事実を、歴史の警鐘として伝えきれなかったことを反省し、後悔する。私たちはいま被災者支援を第一に、復旧・復興にあたらなければならぬ。それと同時に熊本地震の記録を各分野で残すことが求められる。

「読者ひろば」への一般投稿、若者コーナーは450字程度、主張・提言は600字程度。◇欄外に郵便番号、住所(アパート・マンション名も)、氏名、年齢、職業(無職の方は元職でも可)、電話番号を明記する◇趣旨を変えず文章を直すこともあります◇原稿は返却しません。二重投

投稿される方へ

稿、採否の理由等の問い合わせはお断りします。匿名は不採用。掲載分には薄謝を送ります。

- あて先は①郵送 〒860-8506、熊本市中央区世安町172、熊日「読者ひろば」係
- ②ファクス 096(363)1268
- ③Eメール

hiroba@kumanichi.co.jp